

EXERCISE 134

〔感染症合併妊婦の管理〕

感染症（パルボウイルス B19 ,サイトメガロウイルス）合併妊娠の管理

Q 673 サイトメガロウイルス母子感染の診断、治療、予防について正しいものはどれか。

- a) 初感染の診断法としては CMV に対する IgM 抗体の検出が最も信頼性が高い
- b) 出生前診断としては胎児血中の CMV 分離法が最も感度がよい
- c) 先天性巨細胞封入体症に対する有効な胎児治療はまだ確立していない
- d) 予防法としてのワクチンがすでに実用化され胎内感染の頻度は激減した
- e) 主な感染経路は性行為によるので感染の予防は容易である

Q 674 サイトメガロウイルス母子感染の臨床像として正しいのものはどれか。

- a) 母体が初感染の場合にはほぼ全例で感染症状が認められる
- b) 妊婦の子宮頸管や腔から CMV が分離されることは極めてまれである
- c) 先天性巨細胞封入体症が発生するのは主に再活性化の場合である
- d) 胎内感染しても新生児期に無症状の場合には神経学的後遺症の発生を無視できる
- e) 再活性化の場合にも胎内感染が起こることがある

Q 675 パルボウイルス母子感染の診断・治療に関して正しいものはどれか。

- a) 母体感染の診断は主に血清のパルボウイルスに対する IgM 抗体の検出による
- b) 母体の感染では多くの妊婦が重症貧血となる
- c) 母体の感染のほとんどすべてに顔面の紅斑が観察される
- d) 胎内感染による胎児水腫は致死性であり胎児治療の適応はない
- e) 胎内感染の診断材料として胎盤組織は不適切である

Q 676 パルボウイルス母子感染の臨床像として正しいものはどれか。

- a) 妊娠後期の感染がより胎児に危険である
- b) 母体感染の 9 %前後で胎児水腫や死産が発生する
- c) 妊婦のほとんどがパルボウイルスに対する免疫（特異抗体）をもっていない
- d) パルボウイルスは母体に潜伏感染していることが多い
- e) 胎内感染児に外表奇形が高頻度に出現する

Q 677 パルボウイルスについて正しいものはどれか。

- a) 突発性発疹の原因ウイルスである
- b) 初感染でも IgM 抗体がほとんど検出されない
- c) 保険適応になった検査法はまだない
- d) 初感染でもほぼ全例が無症候性である
- e) 輸血や血液製剤を介する感染経路も知られている